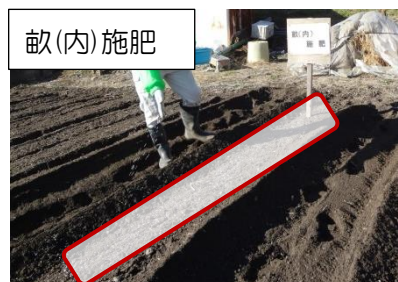


今月の農作業

主要果菜類の品種について	土づくりと畝立て方法について
<p>★トマト</p> <p>桃太郎シリーズ トマトの代表品種。糖度が高く、肉質が良い。</p> <p>りんか409 収量・品質共に優れており、抑制栽培（夏秋栽培）に向く。</p>	<p>①耕耘（こううん） 水はけが悪い畑ほどしっかり行う。</p> <p>②畝立て（右図） 畑の傾斜等にもよるが、基本的には南北方向に畝を立てる（作物にまんべんなく光をあてるため）乾燥を好むサツマイモや根を深く張るナスなどは高畝に、水分を好むサトイモや土寄せをするジャガイモなどは平畝にする（例外もあるので畑の水はけの良し悪しで判断する）。</p>
<p>★トウモロコシ</p> <p>バイカラー系 カクテル、グラビス、優味（ゆうみ）、さきちゃん、ハーモニー</p> <p>ショコラ83</p> <p>イエロー系 ゴールドラッシュ84、</p>	<p>③施肥（※色々な施肥方法があります）</p> <p>全面施肥…畑の全面に施肥する方法。畑の土壌改良が目的の場合（酸度矯正や水はけ改善等）には有効。機械を使えば省力的。</p>
<p>★ナス</p> <p>千両2号（長ナス） 長期栽培でも生産が安定する。石ナスの発生が少ない。</p> <p>筑陽（ちくよう）（長ナス） 曲がり果が少なく、ツヤが良い。</p> <p>早生大丸（丸ナス） 肉質が良く、皮が柔らかいため煮ナスや田楽に適する。</p> <p>くろわし（米ナス） 肉質が良いが、灰色かび病がやや発生しやすい。</p>	<p>畝(内)施肥…畝の内部にだけ施肥する方法。作物の根が伸びる範囲だけに施肥するので、全面施肥に比べるとムダな肥料を施用せずに済む。</p> <p>溝施肥…畝内にすじ状に施肥する方法。キャベツやトマトのように栽培期間が長く、根を深く張る作物に向く。</p>
<p>★ミニトマト</p> <p>サンチェリーピュア 裂果が極めて少ない。</p> <p>キャロル10 作り易く、夏秋栽培に向く</p> <p>千果（ちか） 糖度が非常に高い。</p>	<p>点施肥(植穴施肥)…植穴のみに施肥する方法。畝内施肥や溝施肥よりもさらに肥料の削減率が高い。施肥後は土とよく混和すること。</p> <p>点施肥(ポット施肥)…育苗時にポット内に緩効性の肥料を施用する方法。畑での施肥作業が必要なくなる。</p>



野菜作りの基礎知識～育苗について～

①育苗培土について

園芸培土は多数販売されていますが、選ぶ際には以下の点に注意しましょう。

①育苗する作物

②育苗規格（播種床、ポット、セル）

③肥料分（特に窒素）

袋には対象となる作物名が記載されています。また、育苗時期や、セルの大きさによって育苗期間は変わってきます。長い間育苗する場合は肥料分が多く、緩効性肥料が含まれているものを選びましょう。

なお、**培土は生ものです。長期間保存すると変質するので、できるだけシーズン毎に使い切りましょう。**



多くの野菜に使えるオールマイティーな培土



肥料分が多く、育苗期間が長い作物に適する



適する育苗方法が記載されている培土もある

②育苗（鉢あげについて）

葉菜類は育苗や定植の労力省力や苗の扱いやすさからセル成型育苗が主流になっています。一方果菜類は、平床やセルトレイからポットに鉢あげし、その後定植する手法が一般的です。鉢あげ時期は本葉が2～3枚になった頃です。その後は **①水（夕方には土の表面が乾く程度に）** **②温度（作物によって適温が異なる）** に注意しながら管理します。葉が大きくなってきたら葉が重ならないように苗と苗の間隔を広げてあげましょう（ずらし）



農業基礎知識 Q&A ～組合員さんからの質問に答えていきます！～



>>Q. 畝に直接タネをまくと中々発芽が揃いません。鎮圧のし過ぎでしょうか？

A. 発芽が揃わない原因としては以下のようなものが考えられます（ほんの1例です）。

①播種床・覆土が一定ではなかった ②肥料、水分ムラ ③発芽に適さない温度だった

播種時の畝はしっかり耕耘し、播種床は棒などで同じ深さのまき溝を作り、均一に覆土・鎮圧しましょう。鎮圧後に種子の厚さの2～3倍の深さに種子があればOKです。播種後は速やかに水やりをしましょう。発芽適温は作物によって異なるので、詳細は普及センターや農協に確認してみてください。



>>Q. マルチ栽培の際、土寄せはどうやって行えばよいですか？

A. 何を栽培しているかによりますが、基本的にマルチ栽培をしている時に土寄せを行う必要はありません。そもそも土寄せを行う目的は、

①根の乾燥防止 ②作物の倒伏防止 ③土壌の通気性改善 ④除草 等です。マルチを張ることで、③以外の目的は達成しています。ジャガイモをマルチで栽培する場合は、土壌水分が高すぎると腐りやすくなるので、できるだけ高うねにして、植穴からイモが顔を出していたら土をかぶせて緑化を防ぎましょう。

技術事項作成協力

上小農業改良普及センター（岡崎）

電話番号：0268-25-7156（直通） FAX：0268-23-2161